

令和2年 市政ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 令和2年11月15日（日） 10時～12時
- 開催場所 近隣センターふさの風
- 参加者 市民34名
- 出席者 星野市長、廣瀬総務部長、渡辺企画財政部長、隈市民生活部長、
柏木環境経済部長、古谷建設部長、伊藤都市部長、他管理職17名

■懇談要旨

市民：1番目は質問です。この近隣センターふさの風は、利根川洪水のハザードマップで3～5mの水没区域で危険な場所です。堤防まではわずか40mで2階に居ても堤防より低い位置です。しかも、ここから避難場所である布佐小学校に行く際には、利根川のすぐそばの危険な道を1kmも歩かなければなりません。昨年のふれあい懇談会において「利根川の水位が上昇して、レベル4避難勧告の場合はもちろん、レベル3高齢者避難開始が発令された時点で、危険な近隣センターふさの風は直ぐに閉館して避難を勧めるべきではないか」と提案しました。それに対して市民生活部長から検討しますというご返答がありました。議事録にも記載されています。この検討結果がどのようになったか、ご回答ください。

2番目は、風水害の避難場所から近隣センターふさの風を除外した方が良いという提案です。この提案は、今年7月31日に市民安全課の方が説明会に来館された際に伝えたもので、「その意見に間違いはない。私もそのとおりだと思う。」とおっしゃっていただきましたので、改めて提案理由を説明します。その理由として、ハザードマップでは土砂災害危険箇所は、ここからかなり離れた布佐下という場所であり、布佐南近隣センターのすぐ近くです。従って土砂災害避難場所は、布佐南近隣センターに変更すべきだと思います。

風水害の避難所は自主避難所、土砂災害避難所、利根川洪水避難所、手賀川洪水避難所の4種類との事で、それぞれ避難所も一部異なりますが、緊急避難の際、住民は4種類の違いなど考えてられません。

また、市の計画では、利根川洪水以外の3種類の避難所ならば、このふさの風が安全だと考えている様ですが、そうではありません。実例を挙げれば、昨年の

台風19号では、ふさの風は朝に自主避難所になり、昼になると土砂災害避難所になり、しかし夜中には利根川水位上昇の避難勧告が発令され逆に最も危険な場所に一転しました。たまたま避難者が居なかったのが大事には至りませんでした。ふさの風を避難所として利用する限り、将来再びそういう危険な事態に陥るでしょう。防災計画では最も危険な事態を想定しておく事が大切だと思います。布佐地区で最も危険な事態である利根川洪水を初めから念頭に置き、風水害の避難所としては初めから近隣センターふさの風を除外しておくべきだと思います。100年に一度の災害が3年後に発生しても不思議ではない時代です。ご検討よろしくお願いします。

市民生活部長：自主避難所として、近隣センターを指定しております。洪水など災害が出た際にはふさの風は閉鎖します。市では、災害の種類によって、最大の起こるべき状況を考慮しながら避難所の選定をしていきたいと考えております。

市長：それぞれの災害によって、公共施設をまず開設することとしています。東日本大震災時では、布佐小学校に多くの方が避難してきました。学校の体育館は寒く、近隣センターは空調があり、居住環境がよいので、まずは各近隣センターを自主避難所として開設しております。布佐地区を他の近隣センターで賄うことはできません。ですから、まずは避難所として開設を行い、場合によっては他の近隣センターへの移動手段も考える必要があります。ふさの風は利根川の決壊以外では避難所としての機能はあるわけですから、今後は状況によって、避難所を広げていき、風水害の際には開設するか検討していく必要があると考えます。

中学校にエアコンを導入するのは、避難所のことと考えているためです。中学校は、小学校の体育館よりも多くの方が避難することができます。布佐地区の方は、ご自身でも情報を得る努力をして、避難してほしいと思います。田中調整池は今年の台風で機能しました。今回は能力の6割程度。それを10割に近づけるための工事を国が実施していく予定です。市では調整池の水が市街地に流れないようにしてほしいと要望していて、市としてはなるべく多くの避難所を開設したいと考えていますし、パンク状態にならないように考慮していきます。

市民：避難所についてです。布佐南地区は各公共施設への距離が遠く、水害の際には近くに避難所がありません。我孫子東高校は地震の際には避難所に指定されていますが、水害の際は指定避難所になっておりません。高い所に避難すれば助かる可能性が高くなりますので、避難所に指定してほしいと思います。

2点目は、2年程前に印西市の行政境にあります、関杵橋から356バイパスに向かっての我孫子市道について、我孫子東高校南側に歩道の設置を市への要望として文書を出しましたところ、市長名で用地買収の件があるため、検討していくという回答をもらいました。その後の進捗状況を教えていただきたい。

市民生活部長：我孫子東高校の避難所指定に関しては、検討の課題とさせていただきます。先ほどお話したとおり、まずは御自身で情報を得る努力をしてほしいと思います。災害が起きた場合には、どちらへ避難するのか、最大限、身を守る努力をしてほしいと思います。

建設部長：私も要望内容につきましては、確認しておりますが、詳しくは課長から説明させていただきます。

道路課長：市内にその他さまざまな箇所の拡幅について要望をいただいております、順次進めておりますが、今は一番西の方の地区を行っております。用地等の確保もしていくため、どうしても時間がかかってしまいます。その間、安全対策として、例えば路面標示などの暫定的な整備等も検討出来ます。市といたしましては、事業計画のもとで進めておりますので、いつまでにとすることは、はっきりとお答えできませんが、順次進めてまいります。ご理解ください。

市長：我孫子東高校の避難所の件は今後、県の教育委員会とも協議をしていきたいと思っております。歩道の拡張については、市境でありますので、市単独ではなかなか難しいため、印西市や県等と協議しながら検討していきたいと思っておりますので、お時間をいただきたいと思っております。

市民：水害についてです。布佐小学校が第一順位と聞きました。避難勧告が発令するときは、小学校も開設できるよう準備をするという話を聞いて、大変うれしく思います。

実際、水害が起きた時にどういう体制で進めて行けばよいのか、スムーズに運営できるようにしてほしいと思います。自治会連合会でも避難訓練は実施しております。そういった中で、他の自治会との連携を進めてほしいと思います。また、災害時には、小学校のカギを開ける担当者が、この地区に住んでいると聞きました。この地区で行われる避難訓練の際には、ぜひ、その担当者にも出席していただき、連携を密にしていきたいと思います。改善の程よろしく願いいたします。

市民生活部長：地域の防災につきまして、ご協力いただき感謝しています。連絡体制に関してはこちらからも密にしていきたいと思ひますし、今後、訓練の際には市としても協力していきたいと思ひます。また、鍵の担当者につきましても要望を伝えていきます。今年、各地区や小学校では新型コロナウイルス感染拡大防止により、避難訓練を中止にしたり、回数を減らすことになりましたが、8月には市職員を対象とした避難所開設訓練を実施しました。職員からは実施してよかったというような声も出ており、今後も続けていきたいと思ひます。防災は、市だけでなく地域の皆さまの協力が必要であります。今後ともよろしく願いいたします。

市民：質問の1点目は、国道356号沿いの愛宕（あたご）様という神社があります。左側の道路付近に木が生い茂っていて危険ですので、8月に市に電話をしたのですが、県が管轄しており、要望があったことを伝えるとの回答でしたが、未だに改善が見られないので、進捗状況を教えてほしい。

2点目は、我孫子市のギャラリーとして使用できるのは市民プラザのみですが、来年の1月から1日の会場費が130%値上げになります。高齢化によりメンバーも減ってきており、会費を集めることが困難になってきております。ぜひ、会場費への配慮をお願いしたいと思ひます。

建設部長：こちらにつきましては、柏土木事務所が管理しております。以前、枝を選定したようでしたが、現状がどうなっているのかわかりませんので、後ほど場所をもう一度確認し、明日、柏土木事務所に要望を伝えるようにいたします。

企画財政部長：受益者負担のあり方ということで、市全体の使用料などの見直しについて、お答えいたします。市の施設料金につきましては、平成22年に受益者負担のあり方に関する基本方針にて一度見直しを行いました。その段階で概ね4年に1回見直しを行う方針であったのですが、消費税が5%から8%に上がり、なおかつ10%にあがるという話があった中で、消費税の値上げの期間については、様子を見ようということになり、10年以上値上げを行いませんでした。そして、令和元年の10月から消費税が10%に上がることが確定しましたので、見直しを行いました。使用料については、市の貴重な自主財源にもなっております。いろんな施設をご利用になる中で、施設を利用されて受益を受けている方と、全く施設を利用されない方との公平性を確保することから、本来であれば2倍の使用料になる施設もあったのですが、急激な値上げにならないように調整し、現在の料金となりました。ご理解いただきたいと思います。

市長：公共施設については、市が負担して建設した場所もあれば、市民プラザのように毎年共益費等を支払い使用している施設もあります。すべてを利用者に請求するのではなく、市も負担している部分もあり、賃料も値上げしている中で、利用者にも負担していただかないと、利用していない人との間に不公平感が出てしまいます。そういった中で利用料を決めており、本来であればもう少し負担していただきたい部分があります。なお、共益費等が値下げすることがない限りは、値下げはできないため、今後も値上げすることもあり得るということをお伝えいたします。今後、市民会館を建設する場合には、市民プラザとけやきプラザを閉鎖し、その維持費を建設費に充てるということも考える必要があり、利用料については、他市の例や、受益者負担を考え決定していきたいと思っております。

市民：2年前にふれあい懇談会で横断歩道の白線が薄くなっているということをお

願いしたところ、きれいに引いてありました。感謝しております。引き続き、その他の部分についても、お願いいたします。

13ページ学校施設の個別計画についてですが、①②③で検討段階が書いてあります。我孫子市では小中一貫を考えている中で、児童生徒数が減少している地区では、少人数学級を検討しているのかどうかお聞きいたしたい。また、どのように保護者や地域住民の意見を聞いていくのでしょうか。パブコメなどではなく、説明会を開催してほしいと思います。

市長：横断歩道の規制に関するものは、警察が管轄しています。警察には伝えているのですが、信号もLED化されて金額もかかり、予算の関係もあって、なかなか進まないのが現状です。他にも線が薄くなっている箇所があればその都度教えていただければと思います。私も我孫子警察から県警に要望を伝えてまいります。

学校施設の件については、市の教育委員会の方針を伝えておりますので、教育委員会の代弁として聞いていただきたいと思います。現状では、児童生徒数は市内で約9,000人の小中学生がいて、小学生が約6,000人、中学生が約3,000人です。生徒数が少ない学校のいいところもありますが、生徒数が少ない学校だと部活の種類が少なくなってしまう、生徒数が多い学校をうらやんでいるような声を子供たちから聞いています。布佐地区においては、少人数学級とする意図はなくても現在そのような状況であり、1学級30人となっています。

教育は人数によって、変化するのではなく、教育の仕方によって変わってくると思います。今の時代に沿って、パソコンと同時にタブレット端末を使用していく上で、自分達の夢の実現に向けて、しっかり勉強をしていくことが必要であると思います。また、そういった環境を作り出さなければいけないと思います。大規模校がいい訳ではありませんが、小規模校であることでできないこともあります。学校間で部活等の格差が出てしまうのはどうかと感ずることもあります。今回、いただいたご意見は教育委員会に伝えます。なお、ふれあい懇談会は市長部局の事業ですから、教育委員会でもその必要があった場合、ふれあい懇談会に教育委員会が同席してもらうか、またこういった形での教育委員会主催の懇談会を開催するのか、検討されると思いますので、ご意見は伝えさせていただきます。

市民：資源ごみの奨励金についてですが、先ほどの説明の中で奨励金は、廃止するといわれておりましたが、自治会の貴重な財源になっています。交付金のようなものであり、自治会としては廃止になると困ります。現状はどのような段階なのか、詳細に教えていただきたいと思います。

環境経済部長：現在は見直しの検討中ですが、奨励金をすべて廃止するというものではございません。世帯に奨励金は残しつつ、資源を多く出せば、その量に応じて給付されるお金については、廃止する方向で検討しているということです。

クリーンセンター課長：今、部長がお話ししましたとおり、資源の売却額がかなり下がっております。皆様がお出ししていただいた資源に対し、奨励金を支給していますが、今後資源を減らしていこうとする中で、時代にそぐわないことが一番の理由であり、資源の量に応じた奨励金については見直したいということでもあります。なお、世帯に応じた奨励金については、いままでどおり支給してまいります。

市長：ゴミの排出量が多いから奨励金を多くもらえるということは、ゴミを出すことを奨励しているようであり、おかしいことだと思いますので、これについては廃止しようという考えです。資源ごみの売却額が減っている中で、税金を持ち出してまで支給するのはどうかと思います。見直し案については、世帯に応じて定額にするなど、いろいろとあると思いますが、皆様の意見を取り入れながら、自治会の運営に大きな支障が出ないように検討していきたいと思います。

市民：布佐地区の小中一貫、施設整備などについてです。学校施設の老朽化に伴う整備などの検討会も傍聴させていただきました。この資料にあります、学校の児童生徒数の適正規模をこのように決めた根拠を聞かせてほしいと思います。学校の統廃合が布佐だけではなく、湖北も検討していたようでした。適正規模と給食に関しても検討されているようですけれども、昨年、市民の意見を聞く場として、パブリックコメントがあり、多くの意見があったようです。私がパブリックコメ

ントを見に行こうと思ったのですが、箱がぎゅうぎゅうに詰まっていて、なかなか取り出せないほどでありました。もう少し市民の意見を丁寧に聞いていただけるとしてほしいと思います。それから、市の方に要望を文書で回答してほしいと伝えたのですが、文書では回答しないと言われてしまいました。どうして文書で回答しないのか、いつからそのような状況になってしまったのか、お聞かせください。

市長：適正規模については、教育委員会が示しているとおりで。実際に、我孫子市内では30人学級となっているところがあります。学校の施設、維持管理については私の方に権限がありますが、学校の運営に関しては教育委員会の権限下にあります。そのことについては、私の方から口を出すことは出来ないことをご理解ください。私の小さい頃は、小学校が6つで、中学校が3つしかありませんでした。湖北台の造成や人口の増加によって、我孫子市は市制施行となり多くの小中学校ができました。しかし、現状では人口も減少しており、特に東側の学校では、それが顕著になっていて、3つの学校が一つになっても十分間に合うという状況になっています。生徒の人数によっては、教師も減るということは現実と考えられます。布佐中と布佐小は、幸いにも隣合わせの敷地であり、ハザードマップにもありますように、布佐中の敷地は水没エリアですが、布佐小の敷地は水没エリアではありません。それであれば、布佐小の敷地に9学年が一緒に過ごせる学校を造ってもいいのではないかと考えています。そのようにすれば、体育館やプール等が共用でき、中一ギャップの解消にもなり、小学校の5年生から各教科の先生から授業を受けることができるというメリットもあります。低学年は独自のグラウンドがあり、中学生と共用していないところも他市ではあります。ただ、災害のこともあり、今後は一貫校にしてもいいのではないかと思います。ただし、そうなると布佐南小はどうするかということになりますが、布佐地区から、スクールバスをだすなどして、分校扱いにするのか、他市の例も見ながら効果的な運営をしたいと考えています。そして、魅力ある学校に繋がっていかねばなりません。そこで、浮いた費用を布佐地区の教育事業に特化して充てたいと考えています。当然、こういった事は総合教育会議の場で教育委員さんと相談させてい

ただ、その地域の子どもの教育には何が必要で大事であるか、そして、今の生徒数、将来の生徒数を見ながら、生徒数にあった校舎数、教室数を考えていかなければならないと思います。

特別支援学級については、維持していきたいのですが、生徒数が増えてきています。最大で8人の生徒に対して2人から3人の教師が必要になります。よって、マンパワーを維持していく必要があると思います。現状では通常の教室に3名程度の生徒しかいないので、今後は教室の作り方を考えていく必要があります。建物はどうするか、給食室はどうするかなど、様々な考え方を検討していきたくて考えています。

いずれは、地域や保護者の方々に、教育委員会がアンケートを取る予定でいると聞いております。そこで子ども達の教育環境など、ご自身の様々な考え方をお示しいただければと思います。布佐小・布佐中・布佐南小について、布佐小学校の建て替えに合わせ、次の50年も考えていく必要がありますので、検討していく中で、皆様にご協力いただきたいと思っています。なお、教育委員会への意見等については、部局が異なるため、私から教育委員会に要望を伝えてまいります。

文書回答についてですが、同じ質問をされましても、進展がなければお答えが同じになってしまいますので、そこは文書では回答しないということになります。

市民：上町地区のポンプ場の工事について、なぜ遅れているのでしょうか。毎回聞くたびに7年から8年後に完成するとの回答をいただいております。理由をお聞かせください。もう一点は、利根川が増水した際には、消防署や消防団などが、布佐地区でテントを張って警戒していただけると、市民も警戒しているんだということに安心すると思いますので、そういったことを検討してほしいと思います。

建設部長：毎回申し訳ございませんと謝るしかないのですが、下流の方から順次、管の埋設を行っております。毎回水が溜まる部分については、道路課で調査いたしました。現在U字溝に溜まっている部分については、浚せつしまして、コンクリート蓋をグレーチングにかえて、U字溝の中に水をおさめるようにしています。工事の遅れの理由につきましては、この工事は市の単独事業で出来るものではあ

りません。よって、国の交付金を使用し、一般財源をつけて実施している事業のため、遅くなってしまいます。厳しい予算状況の中ですが、毎年予算をつけて、布佐地区と若松地区と後田地区においては着実に進めております。ご理解いただきたいと思っております。

市民生活部長：市では、利根川の水位はパソコンの画面で24時間監視できるようにしております。お話があったように現場で待機することについては、消防自動車を出すことで安心感を与えることにつながるのであれば、私の方から消防署に伝え消防団にお願いできればと思っております。

市長：ある一定の水位になれば、消防団の21分団が、巡視することになっております。市では栗橋や野田にある芽吹橋の水位を注視しながら対応をしています。

また、一定以下の水位であっても、どのような危険性があるのかを検討し、どの避難所を開けるのか検討しています。利根川が溢れた場合、手賀沼が溢れた場合、土砂災害がある場合、それぞれどの避難場所を開設するか判断しています。手賀沼に関しては、台風などが接近してくる場合、あらかじめ予想降水量に応じて、水位を事前に下げています。前回の台風時は30センチ下げましたが、雨が降って元に戻った状態になりました。このようにゲリラ豪雨以外ではある程度の予防をすることができるようになっております。先ほどのご意見については、消防団の安全の面から、テントを張って待機することはどうかと思いますが、消防団が活動している状況が分かれば皆さんも安心すると思っておりますので、そういった部分も含めて、今後については検討していきたいと思っております。

市民：小中一貫校に関してましては、先ほど市長からお話があり、市内でも、この布佐地区が初めてのケースになるのではないかと思います。分離型から一体型に検討するにあたって、いつ頃に実施することを考えているのか、お聞かせください。学校施設が介護施設になるなどの噂も耳に入ってきております。検討委員会が設置され、これからいろんな方向で検討されていくと思われませんが、何年ぐらいを目途にしているのか、こういった方向に向かっていくのか、お聞きしたいと

思います。

市長：スタートしたばかりですので、具体的な時期は、まだ教育委員会とは打合せできておりません。布佐地区の方々は、地元愛が深く教育については、重視していて、我孫子の中でも小中一貫校の初めてのモデルケースへとスムーズに話をつないでくれたと思っています。そういった中だからこそ、小中一貫を根づかせて他の学校もうらやむような学校づくりになれば良いと思います。あびっ子クラブは第一小学校から始まり、他の学校も欲しいとの要望があり、結局は13校すべてで設置しました。小中一貫校についても、品川区等の例を見ながら小中一体型を十分な検討をして、建物だけでなく、教育の充実も慌てず、着実に実施していきたいと思っています。ICT教育も本格的にスタートさせるため進めておりますので、小中一体型のメリットを最大限に生かせるように、一つずつ詰めていく必要があると思います。それには、地域の皆さまや保護者の方々のご理解をいただく必要があります。他の学校も建て替える必要があるため、早期に検討していく必要があると考えています。

市民：つくし野からきました。教育がテーマであると聞いたので、教育長が参加されると思い、出席しました。教育に関しては地域テーマではなく、我孫子市全体でよく検討していただきたいと思っています。西側と東側では、状況が大分違いました。根戸小は大規模校です。小一ギャップというのもあるでしょうが、小中一貫校になった際には、初めて学校に行った際に体の大きな中学生とあってどう思うか、生徒指導はどうなるかなど、様々な問題があると聞いております。施設と教育内容は一体ですので、市と教育委員会が一体となって、市民の意見の場を設けて十分検討してほしいと思います。

市長：教育は、お話されたように大事なものであります。私が市長に就任した時に、我孫子の歴史や文化を知らない生徒が多かった事を感じました。今は、我孫子の偉人についての教育にも力を入れています。確かに通常の勉強も大事ですが、地元の文化や歴史の中から水害のことなど、それぞれの地域の歴史や伝統をプラス

アルファードで伝えていく必要があり、地域性を大切にしながら教育を考えていくべきであると思います。なお、このふれあい懇談会は市長部局のタウンミーティングでありますので、教育委員会には、この要望を伝えてまいります。必要に応じて教育委員会で懇談会を実施していくことになると思われま